

萩 ネットワーク

第 53 号 2003 年 9 月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

今年も菊ヶ浜を舞台に夏の恒例行事が行われました。例年よりも早く 6 月 29 日に海開き、7 月 20 日にビーチバレー大会、27 日に砂の芸術祭とヨットレース、8 月 1 日に日本海大花火大会など・・・。

全国的な冷夏で、萩も 8 月上旬に台風の接近による大雨など天候不順により、海水浴客は昨年の 1 割減の約 9 万人でした。昨年から常時ライフセーバーを配置し事故はゼロ。

笠山の向こうに浮かぶ島々、指月山に沈む夕陽、イカ釣りの漁り火・・・萩ならではの風景です。菊ヶ浜海水浴場は、昭和 7 年に吉田初三郎によって描かれた萩市街鳥瞰図屏風にも大きく目立つように描かれ、翌年の山陰線全線開通を控え萩市が観光地として海水浴場を広く PR し始めていたことが窺えます。(15 ページ参照) 【写真：下瀬信雄】

菊ヶ浜の夏!!



秋のイベント・萩開府 400 年記念事業・・・P2
高杉晋作資料、萩に里帰り・・・P3
萩 400 年の物語 第 17 回（北村知紀）・・・P4～5
ズームアップ [清水教昭]・・・P5
木戸孝允・井上勝生誕記念講演・・・P6
見島ダイビングステーション・萩の伝統産業・・・P7
萩発 旬の味便り「サヨリ」・・・P7
会津シンポジウム・・・P8

目次

同窓会だより・・・P9
市町村合併の動き、萩国際大学コーナー・・・P10
萩・石見空港、旧萩藩校明倫館・・・P11
夢追人 [土山浩史]・・・P12
記録映画「11 代休雪の鬼萩」完成・・・P13
浦上記念館だより・・・P13
情報アラカルト・・・P14～15
幕末・維新こぼれ話（樋口尚樹）・・・P16



昨年の萩・魚まつり

芸術、味覚、

いろんな秋を
萩で楽しみませんか

大型客船「飛鳥」来萩

日本最大級の客船「飛鳥」(日本船籍、2万8856t、全長193m)が、横浜を出発する13日間の日本列島一周クルーズの寄港地の一つとして、9月24日、萩に寄港します。

萩への寄港は平成13年6月以来2度目の寄港となります。

とき 9月24日(水) 午前7時頃

ところ 菊ヶ浜沖〜浜崎

秋の萩焼まつり

とき 10月10日(金)〜13日(祝)

午前9時30分〜午後5時30分

ところ 田町商店街

内容 萩焼の即売、ロクロ・絵付けの体験、萩の特産品販売

問い合わせ 萩商工会議所
(0838・253・3333)

萩・魚まつり

とき 10月12日(日) 午前9時〜

ところ 萩シーマート・山口はぎ水産物卸売市場周辺

内容 新鮮な魚介類の販売、萩のブランド魚(瀬付きアジ・アマダイ・剣先イカ)の無料試食コーナー、魚のつかみどりほか

問い合わせ 萩市水産課
(0838・253・2330)

萩時代まつり

とき 11月8日(土)・9日(日)

ところ 萩市役所〜金合神社ほか

内容 萩新能、萩時代パレード、平安古備組、古萩町大行列

■萩時代パレード歴代藩主募集

萩藩歴代藩主(初代秀就から13代敬親まで13人)に扮して、城下町・萩をパレードしていただける方を広く全国から募集します。

参加料金 1万円(1人あたり)

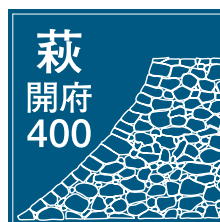
応募要件 身長160cm〜170cm

※会場までの交通費等は参加者負担となります。

問い合わせ 萩市観光課
(0838・253・3139)

来年は萩開府 400 年です！

シンボルマーク



萩開府 400 年記念事業

関ヶ原の戦いに敗れた毛利輝元が慶長9年(1604)に萩を開府して、来年2004年が400年を迎えることを記念して、萩開府400年記念事業が次のとおり開催されます。

今年度はプレイベントとして、全国から陶芸のプロを志す若者を公募し、萩焼の窯元に短期入門して作陶に取り組んでもらう「萩陶芸大リーグ」を皮切りに、萩・大名行列の「江戸天下祭」派遣(11月24日、千代田区)等を開催します。

来年度は萩開府400年特別月間(10月30日〜11月21日)を設け、新博物館(仮称)の開館をはじめ、歴史資料展や陶芸展を開催するほか、萩藩開祖である毛利輝元の銅像を建立します。輝元の銅像は、これまでに中岡慎太郎像(高知県)や桂小五郎像(京都市)等を手掛けた彫刻家の江里敏明氏(京都市)が制作します。

また、萩城の外堀整備や北の総門復元、旧萩藩校明倫館遺構南門の移築、旧久保田家の保存修理など歴史的建造物を修理、改築し、萩のまち全体に広く分布している貴重な歴史・文化遺産を近世の都市遺産としてしっかり残し、まち全体を博物館に見立てた「まちじゅう博物館」構想の取り組みを進めていきます。

萩・大名行列(平安古備組)の「江戸天下祭」派遣

とき 11月24日(月・祝) 午後2時〜4時(予定)

ところ 日比谷シャンテ〜晴海通り〜丸の内仲通り〜行幸通り

■平成15年度(プレイベント)

事業(行事)の名称	期日(期間)
萩時代パレード	11月9日
新博物館竣工式	11月10日
まちじゅう博物館シンポジウム	11月11日
萩・大名行列の江戸天下祭派遣	11月24日
萩陶芸大リーグ(後期実習・窯たぎ)	11月22日〜24日

■平成16年度(主な記念事業)

事業(行事)の名称	予定期日(期間)
毛利輝元公の銅像建立	11月10日
新博物館の開館	11月11日
新博物館開館記念特別展(仮称)「毛利輝元と萩開府」	11月11日〜12月10日
山口県立萩美術館・浦上記念館「萩開府400年記念陶芸展」(仮称)	10月30日〜11月28日
外堀の整備・北の総門復元	11月
萩・城下町サミット	11月
萩開府400年ウォーク(萩往還編・萩城下町編)	11月

長岡の銘菓に残る「萩」

萩市長 野村興児



明治元年、戊辰の年の夏、東北地方の各地で激戦が続いていた。今から135年前の夏のことである。8月3日、北越の長岡市で歴史シンポジウムが開催され、「松陰と虎三郎の時代」という演題で話しをさせてもらった。

長岡藩は、司馬遼太郎の歴史小説「峠」に書かれているように家老河合継之助が兵制の近代化を成し遂げ、奥州越列藩同盟の一員として新政府軍に対峙し、旭山の戦いなどで多くの犠牲者を出したところ。丁度夕刻は、信濃川の河川敷での長岡大花火大会が開催され、会場に招かれる。開会に当たり長岡市長が「長岡の花火大会は、北越戦争、前大戦の空襲で被害を受けた方々への供養のために行う」と挨拶。まさか135年前の話しまで出てくるとは思いもかけなかった。北越の長岡はじめ奥州各地では、未だ135年前の事々が語り継がれているのである。

ひとつは、「二虎」という米百俵本舗の菓子（写真）。阪神タイガースが快調ということでの虎ではない。長岡の小林虎三郎と萩の吉田寅次郎の「トラ」なのである。小泉総理がかつて施政方針演説で「米百俵」こそ教育の原点として紹介をされた当事者の小林虎三郎は、佐久間象山に学んでいたが、同じ時期に吉田松陰こと寅次郎も同門下生として学んでいた。当時から傑出していた二人は、「象門の二虎」と呼ばれ、名声を博していた。この故事により、地卵を用いたコクのあるしつとりとしたドラ焼きとしたと説明されている。

今ひとつは、日本三大銘菓と言われている大和屋の「越の雪」。越後の餅米の寒晒に和三盆糖を配合した菓子。その説明書には、「吉田松陰の弟子、高杉晋作は亡くなる10日程前、今年の雪見はもうできないからと、見舞にもらった「越の雪」を傍らに置いてあった松の盆栽にふりかけて雪見の名残りをされたといわれている」と紹介されている。

いずれも長岡の菓子であるが、萩との関わりを大変大事にされていることに驚かされる。肝心の本家萩にも、是非とも「萩」のブランドを大事にし、菓子や他の商品に結びついていかぬものかと思いを至す次第。

晋作の遺品、萩に里帰り

来年開館の新博物館で展示

東京都在住の高杉家から萩市への寄託が決定した高杉晋作の遺品約270点が、約130年ぶりに生誕地の萩市へ戻りました。寄託された史料は、来年11月開館する萩市新博物館（仮称）で常設展示します。

このたび、寄託された史料は、晋作が愛用した携帯用の道中三味線や守り袋（藩主毛利家からの拝領品）、酒を入れて持ち

歩いたという瓢箪のほかに、上海に渡航した際に使用した行李や、上海で買求めた花瓶や香炉、功山寺拳兵の際に三条実美から与えられたという寄兵隊軍旗「忠義墳骨髄」（実美筆）などがあります。

また、晋作自筆の史料としては、万延元年（1860）の萩から江戸への航海日記や、同年の江戸から萩への旅日記のほかに、父や母、妻にあてた手紙などもあります。

今後、これらの史料の調査・点検作業に着手し、データベース化を行います。そして、来年11月1日に開館する新博物館の特別展示室で常設展示し、一般に公開します。

野村萩市長は「晋作の遺品は県にとって、日本にとって、どれも文化的価値の高い貴重な資料。新博物館に展示して、多くの人に見てもらいたい」と話している。



道中三味線について説明する樋口尚樹萩市郷土博物館館長

第4回 維新の里
萩城下町マラソン
Hagi Jyōka Machi Marathon
出場者募集！！

今年も「萩城下町マラソン大会」を開催します。

昨年は、県内をはじめ宮城から沖縄まで全国28の道府県から約2300人のランナーがハーフマラソンなど5種目で健脚を競いました。全国規模のこのマラソン大会に参加してみませんか。

とき 12月14日(日)

ところ 萩スタジアム(スタート、ゴール)

参加料 【一般】3000円

【高校生】2500円 【中学生】

1500円 【小学生】800円

【ファミリー】3000円

申込方法 10月31日までに萩城下町マラソン実行委員会へ申込用紙を請求・記入のうえ、参加料を添えて郵便局で申し込み

問い合わせ 萩市民体育館内維新の里萩城下町マラソン大会実行委員会事務局 (0838・25・5519)

萩400年の物語 第17回

初代 秀就の奇妙（下）―彼は何もしなかったのか―

藩主の座にあること50年、歴代でも断トツの萩藩初代の秀就がその存在さえ忘れられることがある。少・青年時代、問題児ぶりが父輝元を嘆かせ、長く藩主として飾り物あつかいにされた。幼時から人質として江戸にとどめられ、家臣たちに囲まれてまともな藩主教育がうけられなかった不幸も前回までに語った。じゃあ、秀就はあの多難な藩政草創期に、全く何もしなかったのだろうか。萩藩と毛利家のために貢献するところはなかったのか。いや、そうではない。父や父の従弟、賢臣たちのように目立ちはしなかったが、彼でなければやれないことをしていた。

家康孫娘の將軍養女と結婚

考えてみれば、関ヶ原敗戦のとき輝元に幼い嫡子として秀就がいて、以後ともあれ元気に成長した、それ自体が萩藩と毛利家へのこの上ない貢献となったのではないか。なぜなら、関ヶ原のあと家康が周防・長門2国を与えたのは輝元・秀就の父子へだったし、その後秀就の長い人質生活と家康孫娘との婚姻があったのだから。

相手は家康の二男結城秀康（越前藩主）の長女喜佐姫。將軍秀忠の姪で、養女として興入れしたから、將軍家に連なったことになる。当時、14歳と11歳。父輝元は萩にいて祝いの席に出ず、重臣宛てに書を贈った。

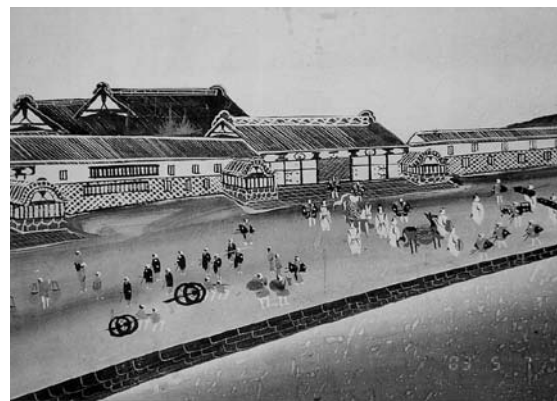
「婚姻の儀其日既に定まる。満郎（桜田藩邸中）の悦び察すべし。我も亦た遙かに賀す」。毛利家の総帥として、また父親としての喜びと安堵が出ている。

幼かった夫婦も9年後に長女が生まれ、以後22年間に次々と4男3女をもうけた。当時のことで、無事に成人したのは3人だが、まずは琴瑟相和す仲だったとみていい。末子が四男綱広で、二代藩主になる。

当世風だ、江戸風だと年長者たちに評判が悪かった秀就をみていて強く感じることがある。いつの世にもある、今時の若い者は…の世代ギャップ以上に、大きな時代の変化があり、彼は父たちのように徳川や幕府に対し殊更な恨みや恐れを抱かずにすんだのではないか。幼少より暮らした江戸藩邸の目の前は江戸城で、妻もそこから迎えていた。

毛利秀元の後見役辞退、宗支藩不和へ

見るところ、秀就一世一代の大仕事は、



秀就が幼少時から人生の大半をおくった萩藩の江戸・桜田邸（毛利博物館『絵図で見る毛利の風景』より）

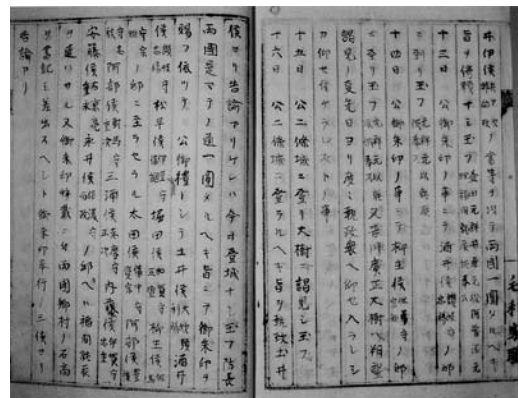
秀元の嫡男光広との縁談がこじれて両者不仲となり、翌寛永8年（1631）秀元が後見役を辞め、不和が深まっていたことである。背景は複雑だ。藩主30年、37歳にもなつて後見役に頭を押さえられていた秀就の鬱屈と反発。支藩主の秀元に長く政治を牛耳られてきた本藩家臣団の不満等々。

秀元は後見役を辞任直後、宗家重臣へ送った書簡で、「さまたげのやからが居るのか、（秀就様が）どんな御分別をなさったのか。近年拙者への御あいさつ、万事不都合になつていて自他とも不審な思いでいる」と、不信と無念を訴えた。

結局、毛利一族のエースで傑出した武将・政治家だった秀元も歴史の中で役目を終え、本藩の政治・行政機構から締め出されたのだらう。それは本藩が秀就を擁し宗主権をかためようという動きでもあったのだ。

秀元らの支藩独立の野望くたく

寛永11年、上洛した將軍家光は二条城で諸大名の朱印改をした。先代秀忠が与えた領知



寛永11年閏7月、秀就の獅子奮迅の活躍を記した『毛利四代実録』（山口県文書館所蔵）

の質問をし、その通りと答えると、さらに朱印状の原本が見たいと言いつ出した。

異例の成り行きだし、奉行は気になることも口走った。どうも幕府は今では宗家一本で出ている朱印状を今回、長府と徳山へは別々に発給しようとしている。両支藩が画策したのだ。これは宗家に出ている防長一円36万9千石の知行が分割され、2藩は独立の藩として処遇されるが、その分本藩の表高は減り、格落ちになることを意味した。

秀就は、この動きに毛利宗家の危機を感じ、断じて許せないと奮い立ったようだ。『毛利四代実録』をみると、翌12日から16日まで連日自ら幕府の最高実力者・土井利勝、ナンバー2の酒井忠勝、二条城の將軍本人へまで、猛烈な反対運動を続けている。殿様本人がここまでやるのかと驚く働きで、長府・徳山2藩の願いは砕かれた。

長府の秀元は將軍家にも幕閣にもつながりの深い人だったが、秀就はその強敵をしのいだ。江戸者の現代っ子といわれた彼の持ち味が、いかに無く発揮されたというべきか。

▶萩の大照院に初代として別格の扱いで葬られている毛利秀就（右）と夫人の墓。大照院は秀就の法名

寛永11年（1634）、將軍家光の朱印改を機に長府、徳山両支藩から宗藩からの独立を画策したとき先頭に立つて阻止したことである。この造反劇には伏線があった。

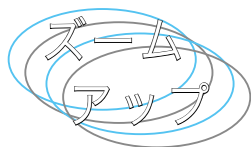
それは、これより4年前、秀就の娘竹姫と

朱印状を改めて家光が出し直すのである。このため閏7月11日、対幕府外交の担当者が朱印状と検地高書付の写しをかかえて出頭、3人の朱印奉行へ提出した。すると1人が「秀元、就隆の領知もこの内にあるのか」という意味

ただ、この勝利の代償は高いものにつく。2年後、秀元・就隆から強いしつべ返しをくうのだ。（つづく）

※筆者の都合により当分の間お休みします

郷土史家 北村 知紀



東陶エキスパートアンドセールス株式会社
教育業務部長

清水教昭氏（54歳）

（北九州市小倉南区在住）

社会人として36年目、うち『人材育成』に関わる職務を続けること15年が経ちます。

受ける側の『目の高さ』より、講師の『目の高さ』を少し低くし、『まず、自分の衿を正す！』この、ごくあたり前のことを実行する。このことが人の育て方の幅を広げさせてくれました。

宇田（故郷）の思い出

私は阿武町宇田の生まれです。そこに立てばすぐに手の届きそうな所に海、山、川が豊かにあるの、生まれた時から潮風にあたり、自然児のまま成長しました。自分だけの穴場で魚を釣ったり、潜ってサザエ・アワビをとったり、山で遊ぶ毎日でした。父は漁師、母は仲買商でしたので学校から帰れば仕事を手伝うのが当たり前でした。55年間の月日が経っても、ス

ローライフの原点がここにはあります。

宇田は大きく変わることなく、田舎の美しい色、遠い時代の懐かしさを残してくれています。私の心の置き場所は宇田です。心の鼓動と風情がピッタリと共鳴してくれる癒しの場所なのです。

私の近況

東陶機器㈱に入社して以来、工場、開発、営業へと転籍し、最後は営業部門の『人材育成』に携わってきました。そのような中で私にとって一番の収穫は「人前で話すことが全く苦にならず、大好きになった」ことです。それは、参加者一人ひとりの気持ちの中に、自らが入っていけるよう心がけているからです。

そのためには『間合い』、『アイコンタクト』、『話題の展開』が重要です。あとは、回数と成功体験の積み重ねに自己反省を必ず行うことです。簡単なようですが大変でした。

萩の思い出

萩は高校を卒業するまでの3年間の思い出が、青春の区切りとして温かく印象に残っています。

それは宇田から萩への点と点が線に成長したことです。中学校を卒業するまでは萩を訪れたことはありませんでした。東萩駅と萩駅があることすら知りませんでした。駅構内が複線で蒸気機関車の上に人が通る建物があり、そこを歩いてホームに行くことへの驚きは今でも鮮明に残っています。目にする物、手で触れるもの全てが新しい発見でした。

私の人生がはじけて、知識の吸収が一気に始まった所が萩です。現在も感謝しております。『萩の温かさ』を人生の節目として…。

萩に思うこと

全国を研修してまわりますと、一番に心に残ることは人間としての魅力です。どこの地域でも輝いている所は人として『人生のステ

ージ』をしつかり見通し、自らが働き、額に汗することの重要性を理解している人が多いということに気がつきました。

今の萩に自らの足で立ち上がり、小賢しい考えは捨てて、思い切って行動していく人達（例えば先人の高杉晋作、木戸孝允）がいるのだらうかと思つた時、萩工業高校の同級生達はどうしているのだらう、その中から萩を興す議員が出てくるのだらうか…。

また、2年後の合併を控えて阿武町は、萩は…と私の心が揺らいでいます。

仕事を半ばにして私は今すぐに帰れませんが、在住されておられる方々に『やむにやまれぬ大和魂』を送り続けております。

プロフィール

●昭和42年 萩工業高等学校機械科卒業 東陶機器株式会社入社
●平成15年 東陶エキスパートアンドセールス株式会社に出向
教育業務部長就任

アメリカにおける －木戸孝允－

アメリカにおける維新研究の第一人者、オクラホマ州立大学名誉教授シドニー・D・ブラウン氏が来萩、木戸孝允生誕170周年を記念して、7月22日、木戸孝允旧宅を会場に、「アメリカにおける木戸孝允」というテーマで講演会が行われました。



▲ブラウン博士を囲む夕べ

1872年に木戸は太政官政府の参議の資格で岩倉使節団に副団長として参加しました。これは特命大使・岩倉具視に次ぐナンバー2の地位。木戸はアメリカにおいてもサンフランシスコ上陸からポストン出港までの6か月余の間、一日も欠かさず日記を書いていた

す。彼の日記は、彼が会った人々、訪れた数々の場所についての心もこもった記録であり、滞在中の彼の喜びや悲しみをそのまま映し出しています。

木戸がこの時期から情熱を傾け始めたのはアメリカ合衆国憲法の研究です。合衆国憲法の研究の結果、木戸はこの時代の日本に合衆国憲法を適用することは難しいと悟り、改めてプロシア憲法に目を向けることになりました。その欽定憲法のほうが君主国である日本の国情に相応しいと考えるようになったのです。滞米中、木戸が大きく落ち込んだのは、不平等条約の改正交渉が最終的に失敗してしまったことでした。この時の彼の日記にはこう記されています。「独立を失ったということではないにせよ、関税の設定権も、港湾規則も、地方行政も、治外法権も、外国人の特権を打破してこちらに権利を取り戻すことはできなかった」。このことについて木戸は後日長い漢詩を作りその中で「陛下のお言葉が今だに耳に響く。自らの不徳を恥じるばかりだ」と心情を述べています。

米国回覧の旅から帰った彼は、日本の憲法確立の下準備について偉大な貢献をし、また、一般大衆の教育を普及することについても大きな貢献を果たしたのです。

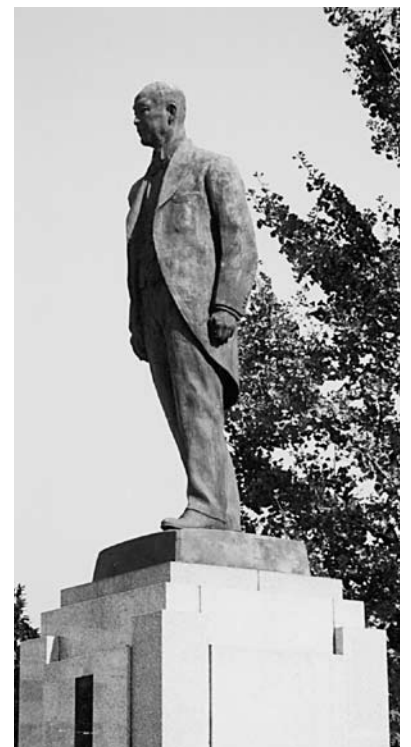
日本鉄道の父 井上勝 生誕160周年 祭

●数々の行事が、生誕の地萩にて開催されました。



▲萩駅舎での井上勝重さん

8月1日は、萩が生んだ日本の鉄道の父・井上勝生誕160年の記念の日にあたります。また今年には山陰本線開通70周年の年でもあります。この節目の年に、井上勝の功績を称えようと、萩鉄道を愛する会（世話人・富山侃さん萩市土原在住）などの主催で、J



▲東京駅にある銅像

R萩駅を中心に記念式典や鉄道歴史展、記念講演などの数々の行事が行われました。

記念式典では、井上勝のひ孫にあたる東京都在住の井上勝重さんが、来賓として招待されました。

また、サンライフ萩で井上勝の功績を振り返った記念講演会（講師・北川亮三 元山口大学工学部教授）が開催されました。

井上勝は1843年、藩の要職を務める井上勝行の三男として萩市土原に誕生しました。1863年、藩命を受け井上肇、山尾庸三、伊藤博文、遠藤謹助らとともに、いわゆる長州ファイブが幕府の禁令を侵して英国に留学し、ロンドン大学のユニバーシティカレッジで鉄道・鉱山・造幣などの技術関連を学びました。

木戸孝允の招きで上京、大蔵省造幣頭兼民部省鉱山司鉱山正として勤務、その後、工部省鉄道頭兼鉱山頭を経て、1872年、鉄道

頭専任となり、我が国初の新橋～横浜間の鉄道を開通させました。1885年、鉄道庁長官に就任し、1889年には東海道本線、1891年には東北本線の開通を行っていました。また、1881年から1897年にかけて、日本鉄道副社長の小野、岩崎弥太郎とともに小岩井農場の経営にも参画、小岩井の「井」はもちろん井上の「井」。

1893年、鉄道庁長官を辞任。3年後、井上肇の支援を受けて鉄道車両の国産化推進のため汽車製造合資会社を設立、2800両余りの機関車を製造した。1910年、ヨーロッパの鉄道事情視察中に腎臓病のためロンドンの地で68歳の生涯を終えました。これらの業績を称えて、鉄道の父・井上勝の銅像が昭和34年、当時の国鉄・東京駅丸の内側に再建されて、今日まで鉄道の発展と進歩を見守っています。

見島の海の魅力を全国に発信 ダイビングステーション「クラブノア見島」開業！



昨年より宇津漁港地区に建設中であった見島ダイビング施設が7月に完成し、竣工式に併せて、開業セレモニーが行われました。当日はあいにくの天候ながら、本場・和歌山から5名のダイバーが来島、見島の海を初体験しました（写真左、写真右は見島を紹介する情報誌「マリンダイビング」）。

ダイビングステーションの運営は、地元島民を中心に130名余が出資設立した株式会社みしま海洋開発が主体となり、周参見（和歌山）、母島（小笠原）、牟岐（徳島）、隠岐（島根）の4か所でダイビングステーションを運営する「クラブノア」の経験豊富なスタッフが実務を担当。代表取締役は、ダイビングサービスをベースに全国各地で地域興しを手がける松田猛司氏。「見島の海は、開発の手垢が付かない、自然そのままの海です。離島なので交通は不便ですが、その分、素晴らしい海をお見せできる自信があります」とPRしています。問い合わせ クラブノア見島（0838・23・5757）
<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/news/diving/>
メールアドレス noah-m@rapid.ocn.ne.jp



▲特殊な道具でバフンウニを割る

この「粒ウニ」は何と山口県が発祥の地。地元の加工場で生産されるほか、漁家が自家用や贈答用に手作りするノンアルコールの「汐うに」は、知る人ぞ知る逸品です。

「粒ウニ」は約30個から7月末までと短く、ほとんどが瓶詰めになった「粒うに」として販売されています。

ハフンウニの漁期は6月から7月末までと短く、ほとんどが瓶詰めになった「粒うに」として販売されています。

ハフンウニの漁期は6月から7月末までと短く、ほとんどが瓶詰めになった「粒うに」として販売されています。

萩の粒ウニ

萩の伝統産業

瓶ウニは山口県が発祥の地

萩を中心とする北浦地区は全国有数のウニの産地です。ウニの種類は、ムラサキウニとバフンウニが主。

1瓶にウニが約30個



▲瓶うにの各種

もちろんウニ採取には漁業権が必要なので、一般の方は厳禁。萩湾の島々や、越ヶ浜から大井にかけての海岸部で海士（男性）・海女（女性）が素潜りで採取。採ったウニは漁家自宅で特種な道具で殻を割り、可食部の生殖巣が丁寧にかきだされます。1瓶70gの粒ウニを作るのに、約30個は必要。ひとつひとつ手仕事なので大変な手間。その後加工所に運ばれ、水切り、塩処理をして、アルコールで瓶詰め。

食べ頃は、熟成した約3か月後から。良いものは、粒が大きく、オレンジの色が濃厚なもの。原料のウニを輸入している製品も多く、こちらは比較的安価。瓶物は判別が難しく、実際には、お値段が最も正直。たくさん食べる品ではないので、多少価格は高めですが、地元産のウニを使用し、た製品がおすすめです。

9月の声を聞くと萩の市場に水揚げが増えてくるのが「サワラ」。魚偏に春と書いて「鱈」、春の魚と思われませんが、春と秋に2回旬のあるお魚です。大きいモノでは1mに達し、この時期、脂が乗って非常に美味しくなります。

旬は春と秋
サワラ

細長い体形から「狭腹」の文字が当てられ、50cm級までの小型をサゴシ（狭腰）と呼んで区別しています。9月中旬から10月末までが、漁も最盛期となり、特に多獲性のサゴシは大量に水揚げされるため、地元の店頭価格で1尾150円〜300円と価格も安くなっています。

DHA・EPAも多く
健康にも良いお魚

クセのない白身のお魚で、この時期は脂も乗って人気が出ます。また、「血液をさらさらにし、アタマにも良い」DHA・EPAの

萩発 旬の味便り

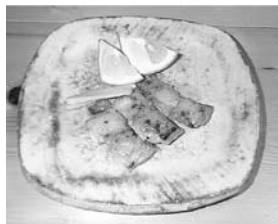


サワラの西京焼き

含有量もベストテンに入る優秀なお魚でもあります。鮮度の良いものはお刺身が一番。鯖の消費量日本一の岡山市ではしゃぶしゃぶが人気とか。小型のサゴシは脂が少なく淡泊な白身、焼き物やフライ、フィッシュボールが好まれます。個人的には、白味噌で包んで寝かし、グリルで焼く「西京焼き」が最も美味しいと思います。中国産など外国からのさわりも沢山流通しているようすが、やはり鮮度の良い「地モノ」を選んでください。肌のツヤ・体の張りが良いものを。

脂の乗りが良い、なるべく大型のサワラの切身を使用します。タッパーの底に、白味噌に日本酒を混ぜたペーストを敷き、ガーゼを置いて切身を乗せます。その上にガーゼを被せ、味噌のペーストでサンドイッチ、冷蔵庫で半日程度寝かせます。あとはグリルで焼くだけ。味噌風味の濃い味がお好きな方は、直

接味噌ペーストを切身に塗って寝かせてもOKですが、焼くときのコゲに注意しましょう。



会津-長州共通の歴史認識へ。 いま、その第一歩を！

6月29日、会津若松市において、「ならぬものはならぬ、会津武士の精神が日本を救う！出版記念シンポジウム」（主催：株財界 21）が開催されました。写真左から野村興兒萩市長・作家の一坂太郎氏（長州側）と菅家一郎会津若松市長・作家の早乙女貢氏（会津側）が出席。



4代目が活躍している時代です。過去の事実は事実としてしっかりと踏まえたい。何か進展を望むことはできないか。そんな前向きなお話であれば喜んでお受けしたいと思っています。

菅家会津若松市長

135年前の悲劇に源を発する「わだかまり」とか「こたわり」、この部分を解決しないと前に進まないのか、という議論についてですが、過去を見た場合、歴史は往々にして勝者の立場から語られることが多かったのですが、敗者の視点から見ることも重要。勝者と敗者、両方の視点からもう一度会津と長州の歴史を検証してみることによって、新史実の発見やそして正しい歴史認識のもとに、新たな展開があるのではないかと、思っています。

山口県からは多くの方が当市に観光で訪れたり、また昨年は松陰ウオークで萩の生徒さんが会津を訪れるなど、民間ベースでの交流はどんどん進んでいます。このような交流の中から、未来の姿は自ずから見えてくるのだと思います。

過去と他人に関しては、なかなか思うようにいかないものですが、未来と自分に対しては、このようにしていきたいという想いがあれば実現していける、そのように考えています。

会津と長州の歴史、私たちが知らないこともあると思います。また反対に、会津の皆さんに知っていただきたい事もあります。戦いをしていた時代からもう3代目

野村萩市長

戊辰戦争は大変壮絶な戦いで、会津の白虎隊の話は特に有名、萩でも知らない人はいないと思います。ただ、それ以上の史実を知っているかというと、はなはだ心もとないう状況ではあります。

会津から年に数回お客様が萩に来られますが、その時に必ずご案内する場所があります。「日除け地蔵」（萩市唐樋町）という場所ですが、そこには白虎隊の石版が安置されていて、線香とお花が絶えることなく供えてあります。

また、お盆になると、萩や周辺町村で、白河踊りが夏祭りに踊られます。正直、その白河が会津の白河であるとは思いますが

めーるぼっくす

ネットワーク会員からのご感想、ご意見を紹介します。

皆さんでこのコーナーをつくりませんか？お便りお待ちしております。

～ Re-Discover HAGI CITY ～

です。為八の記事を待っています。

（奈良県・小野孝志）

■毎回楽しみにしております。母が一人である為毎年夏に帰っております。萩の空気はとても心地よく、貴誌の情報により帰ってから楽しみも増えます。萩を離れて知る萩の良さではないですが、あまりにも故郷のことを知らなさすぎた自分に恥じ入っているところです。これからもいろいろ教えてください。

（埼玉県・林賢治）

■ネットワーク発行以来ずっと愛読いたしております。最近はお齢のため、自転車でも市内を走り回る事が出来ず、市内・市外各所の催し物、名物、歴史的な読物、名士の現状等々、私にとりましては本当に楽しみの通信情報です。頭の活性化にもなり楽しみにしております。有難うございます。

（山口県・藤野律子）

■萩の町にこれだけの話題があるのかとびっくりする程尽きない興味のある題材が揃っており、萩ネットワークが届くのが楽しみです。

（千葉県・横田豊）

■萩ネットワーク誌が届けられると萩の息吹を感じる。私は萩で生まれ育ったが萩の知らなかったことが数々盛り込まれ、身近な情報、思いがけない文化に接し興味深く読んでいます。

（兵庫県・堀明人）

■松村下村塾塾生の小野為八のひ孫

です。萩高・萩工・萩商など出身校に関係なく付き合っています。その接点に萩ネットワークがあります。編集に携わる方の努力も大変だと思いますが、引き続き中味の詰まった本紙の発行を頑張ってくださいと思います。

（東京都・三浦信行）

たちばな会からたち会広島支部

7月12日

ホテルセンチュリー広島21（広島市）



平成の卒業生たち

56人出席。たちばな会16人、からたち会31人。三菱重工広島製作所に最近就職した20代の萩工業卒業生が4人出席。虎竹将志（平成10年機械卒）さんがカラオケ大会の1位。からたち会事務局は土佐岡文夫（昭和43年電気卒）082・288・3533（ワールド電商）。たちばな会事務局は内海公夫（昭和47年卒）082・230・2203（前田建設工業）。

17人出席。支部長が小野村浩（昭和33年土木卒）さんから佐々木紀生（昭和34年土木卒）さんに、副支部長が中野勉（昭和43年電気卒）さんに交替。事務局は内田龍夫（昭和48年土木卒）092・412・3742（ウチダ調査設計）。

からたち会九州支部

7月26日

八仙閣（福岡市）



アトラクションで三味線を演奏する新支部長の佐々木紀生さん（左）

東海指月会

7月6日

名鉄グランドホテル（名古屋市中）



新会長の末永嘉男さん（左）と辻祝生さん

会長が辻祝生（萩高25年卒）さんから末永嘉男（萩高27年卒）さんに、副会長は島本勝（萩高28年卒）さんに交替しました。事務局は吉岡正博（萩高41年卒）0566・99・4069

30人出席。来賓として萩国際大学の村上旦生学長が出席し、国際大学の新しい学科編成をPRを。

九州指月会

7月13日

平和楼（福岡市）

向井慶太郎さん（右）と萩中卒業生の皆さん

34人出席。初めて出席された岩本博、渡辺靖右、木村征男さんが自己紹介の挨拶。乾杯の音頭は昭和7年萩中卒の向井慶太郎さん。事務局は井上秀夫（昭和32年卒）092・596・6809



萩光塩学院同窓会

8月10日

萩光塩学院体育館（萩市）

・22
・0782



炭坑節を踊る参加者

総会では廣澤洋子会長、佐藤和子校長の挨拶に続き、事業報告などがありました。懇親会では、河内男節の生演奏に合わせ多くの参加者が円になり、炭坑節の振り付けで踊りを楽しみました。事務局0838・22・0782

萩高校同窓会

8月8日

萩高校体育館（萩市）



恒例の福引

今年の八八会は40期（昭和63年）卒業生の引き受け、テーマは「萩高魂」。前日から台風10号の影響で大荒れだったが、開始前には雨もあがり、約600人の卒業生が出席、福引は大いに盛り上がりました。事務局0838・25・7407

新市の名称は「萩市」に決定

5月中旬から6月中旬にかけて実施された新市名称募集は、2864件の応募がありました。応募された名称の中から、8市町村長の協議により次の5つが候補名称として選定されました。
 「萩」、「新萩」、「はぎ」、「阿萩」、「長州」
 7月11日に開催された第6回萩広域市町村合併協議会ではこの5点について協議が行われ、その結果、新市の名称は「萩市」に決定しました。

◆6月27日 第5回合併協議会

慣行の取扱いについて
 市民憲章、市章、市歌、市の木・花等については、新市において調整することとなりました。

広報広聴関係事業の取扱いについて

広報紙は新市において統合し、毎月2回発行、配布方法は当面現行どおり、広聴事業は継続し、実施方法は新市において調整することとなりました。

社会福祉協議会の取扱いについて

合併時に統合の方向で調整し、補助・委託事業は合併時までに調整することとなりました。

◆7月11日 第6回合併協議会

新市の名称について「萩市」に決定しました。

◆7月28日 第7回合併協議会

姉妹都市、国際交流事業の取扱いについて
 姉妹都市は新市に引き継ぎ、国際交流事

業は新市において調整することとなりました。

○現在の姉妹都市【萩市】蔚山広域市（韓国）、下田市（静岡県、鎌倉市（神奈川県）、輪島市（石川県）、【須佐町】周南市（山口県）、【旭村】ビルゲンドルフ市（ドイツ）、【福栄村】徳津面（韓国）

保健・福祉事業の取扱い①について

児童福祉事業（児童クラブ、心身障害児等を対象とした事業など）及び低所得者見舞金事業について内容が確認されました。児童クラブの保育時間は、町村に合わせた午後6時までとなりました。

公共的団体（商工会議所、農協、町内会、青年団、婦人会など公共的な活動を営む団体）等の取扱いについて

1市3町4村に共通している団体は統合を基本に調整、合併時に統合が困難な団体は将来統合できるよう調整、独自の目的を持つ団体は現行のとおりとなりました。



平成16年度萩国際大学学生募集！

平成16年度は教育システムの全面的な見直しを行い、従来の5コースを9コースへ再編成しました。特に萩地域の特性を活かした「萩陶芸文化」「維新学」「観光経営」と、欧米同様のゴルフを文化として大学教育の中に組み込み学問的な側面から勉学する「ゴルフ文化」の4コースが新設されました。

■新入学生選抜日程(国際学科5コース140人・経営情報学科4コース160人)

入試区分	選抜方法	出願期間	試験日	可否発表
AO選抜	面談、書類選考 7月1日～9月30日面談実施	9月1日～10月10日		10月17日(金)
推薦選抜	特待生推薦	10月1日～10月31日	11月9日(日)	11月13日(木)
	一般推薦	11月1日～11月25日	11月30日(日)	12月4日(木)
		12月1日～12月17日	12月21日(日)	12月25日(木)
		3月1日～3月25日	3月28日(日)	4月1日(木)
一般選抜	前期日程	1月8日～1月30日	2月8日(日)	2月12日(木)
		2月2日～2月20日	2月29日(日)	3月4日(木)



大学案内

■オープンキャンパス

と き 9月13日(土) 午前11時30分～午後3時
 内 容 大学説明、在学生意見発表、公開模擬授業、懇談など
 無料送迎バス 小倉駅北口、益田駅、長門市駅から出発
 ※オープンキャンパス参加者は、入学検定料(3万円)が免除されます。

オープンキャンパス、大学案内、出願書類等の請求は、〒758-8585 萩市 椿東浦田5000番地 萩国際大学学務課(0838・24・4000)へ

表示が変更されました！
「石見空港」↓「萩・石見空港」

↑ 空港の電光掲示板
←ターミナルビル



「おいでませ山口館」ホームページが
7月1日に開設されました！

観光情報、山口館のイベント、首都圏のイベント、同窓会情報、特産品の紹介・販売、Uターン情報などを掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

問い合わせ おいでませ山口館（山口県東京観光物産センター）東京都中央区日本橋2-3-4日本橋プラザビル1階 ☎03・3231・1863 開館は平日の午前10時～午後6時

石見空港（益田市）は平成5年に開港し、年間約16万人の利用客があります。平成14年には愛称を公募、「萩・石見空港」に決定しました。愛称の周知により一層の利用拡大を図るため、今年の6月からは時刻表及び空港の電光掲示板が、そして7月からは空港ターミナルビル正面の空港名表示板が、「萩・石見空港」に変更されました。

萩という冠が付いた空港をぜひご利用ください。

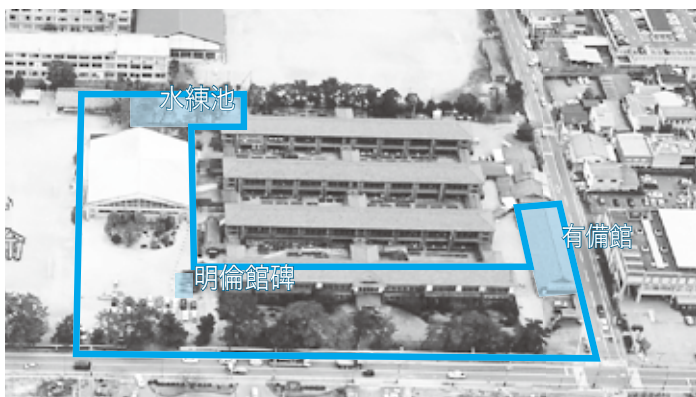
◆飛行機と宿泊をセットにした格安プラン

萩・石見発着の「スッ飛び東京・関西」、東京・大阪発着の「石見ふるさとパック」を9月30日まで期間延長で販売中です。

料金 スッ飛び東京3万4000円、スッ飛び関西2万1900円、石見ふるさとパックの東京発2万1900円・大阪発1万6200円、申し込み 防長トラベル萩営業所（0838・22・1861）、ツーリスト山口（0838・26・6421）、エヌティーエー旅行（0838・21・0020）

新たに文化財指定

5月16日に開かれた国の文化審議会で「史跡 明倫館水練池及び有備館附明倫館碑」を「史跡 旧萩藩校明倫館」と名称変更し、地域を拡大して追加指定するという答申が出されました。また6月27日には、市の文化財として「旧久保田家住宅」、「宇津観音寺観音堂」、「宇津観音寺鰐口」の3つが指定されました。この結果、萩市内の指定文化財は、国・県・市を合わせて121件となりました。



旧萩藩校明倫館

国指定「旧萩藩校明倫館」市指定「旧久保田家住宅」

「宇津観音寺観音堂・鰐口」

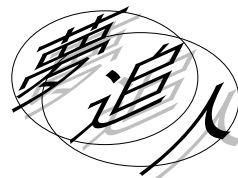
明倫館は、明倫小学校内の水練池、有備館、明倫館碑の3つが国の文化財として指定されていましたが、今回の指定により、これらを含む地域が面として指定され、名称も変更されました。藩校明倫館は、5代藩主毛利吉元が享保3年（1718）萩城三の丸追廻し筋に創建、その後13代藩主毛利敬親が移転拡張を命じ、嘉永2年（1849）に現在の位置に重建されたもので、市指定有形文化財の観徳門や聖賢堂もあります。また、本願寺山口別院から萩市に寄贈された南門（西田町）については、萩市教育委員会が校内で発掘調査を行っており、正確な位置等を確認の後、元の位置に移築することとなっています。

「旧久保田家住宅」は江戸時代後期の建物で、主屋、離れ座敷、土蔵、表門・塀の4棟から成り、国指定史跡「萩城下町」（萩市呉服町）にあります。



宇津観音寺観音堂（見島）

崎の突端にあり、観音堂及び茶堂、鳥居、仏石が指定されました。観音堂の起源は中世にまでさかのぼり、観音への信心に止まらず、海への信仰として建立されました。「宇津観音寺鰐口」は、直径25cm、厚さ8cmの青銅製で、表面には応永13年（1406）に宇津観音に奉納された銘文があり、奉納当初から600年近く移動していない珍しいものです。



土山豆腐店 9代目

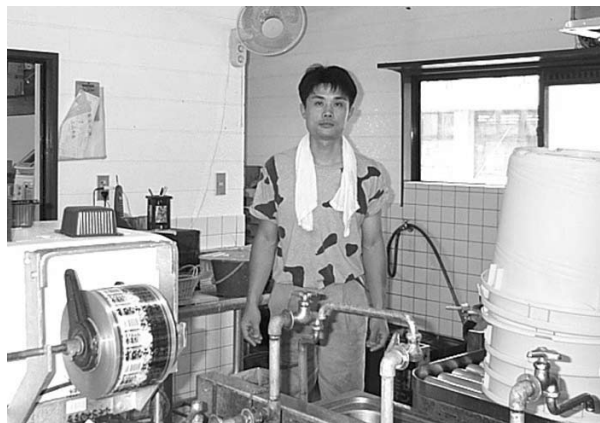
土山浩史 氏 (33歳)

(阿武郡旭村佐々並在住)

創業安政5年、昔からの製法を守り続ける「ささなみ豆腐」の老舗として評判の土山豆腐店。2000年8月に首都圏からUターン、9代目として家業を引き継いだ土山浩史さんにお話をお伺いしました。

3年前に東京からUターン

小・中学校は地元佐々並で、高校は山口高校に進学しました。兵庫県尼崎の英知大学卒業後、ゲームソフト販売大手の(株)タイトーに就職し、首都圏にて勤務。佐々並



▲後片付けが済んだ仕事場で

に戻ったのが2000年の8月です。7年と少し、都会でのサラリーマン生活を経験しました。タイトーでの業務は、渋谷・新宿地区のアミューズメントセンターのエリアマネージャー。営業所長的な業務で、エリア内にある店舗経営全般の責任者として、自分なりに満足のできる業績を上げていました。

ちょうど30歳になったとき、「東京での生活と、山口での生活」「サラリーマンとしての人生と、職人氣質の豆腐屋家業」この2つのことを天秤に掛けて真剣に考えました。このままサラリーマンとして生きて行くのもいいけど、サラリーマンは所詮歯車、やっぱり自分の努力がストリートに結果に反映される家業の方が良い。また、永年続いてきた家業を、親父の代で終わらすことはできない。であれば、定年後とかではなく、なるべく早い時期に田舎に戻り家業を覚えた方が有利、とUターンを決意

しました。東京生まれ東京育ちの妻と2人の子供を連れ、3年前に帰郷。

体力的にはキツイけれど気持ちちは充実

家業の豆腐製造、小学生の頃から手伝われていたので、要領はだいたい分かっていたのですが、正直体力的にはキツイ。午前2時には仕事場に出て9時頃まで製造、その後、午前の配達、午後の製造・配達、後片付けをして仕事が終わるのが午後の8時頃。おまけに休みはほとんど無しです。ただ、サラリーマンの時にように「やらされている」のではなく、自ら進んで「やっている」という感じ。

豆腐の味はその日その日で微妙に違ってきます。体調の優れないときはやっぱり出来が悪い。また、たくさん製造すると自分の疲れが豆腐の味に出してしまう。今は最大でも1日600丁までと決めて製造しています。それこそ毎日毎日真剣勝負で、手抜きはできません。でも気持的には、非常に充実しています。やはり、この仕事に性に合っているのだと思います。

伝統を崩さない範囲で、新しい事にチャレンジ

今後の夢は、「地産地消」をテ



▲店舗の前で8代目の隆幸（旭村商工会会長、旭村議会議員）さんと

■プロフィール

1970年大阪府大東市生まれ、佐々並小・佐々並中から山口高校、英知大学英文科を経て1993年(株)タイトー入社。2000年8月に同社退職、佐々並にUターン。

2000年10月から9代目として老舗「土山豆腐店」を切り盛りする。結婚は25歳の時、奥様は東京都日野市出身、7歳の女の子を筆頭に2男1女の父。

★プレゼント

土山豆腐店のご好意で、伝統の味「ささなみ豆腐」3丁を10名様に抽選でプレゼント。応募方法は官製はがきに「ささなみ豆腐希望」とご記入の上、萩ネットワーク9月号プレゼント係まで。9月30日消印有効。

ーマに、自分の家業である豆腐製造を足がかりにして、佐々並とか旭村といった小さいエリアではなく、山口県の味の実力をもっと都市圏にアピールしていきたいと考えています。例えば、地元産の大豆を使用した手作りの「湯葉」を生産し、地元の料理店で湯葉料理を常時提供できるようにするとか、また本場京都市場に山口産の湯葉を持ち込むとか、またその原料となる地元産大豆をもっと量産できるように働きかけるとか・・・。

細々と今の家業を守って行く事にも意味はあると思いますが、どうせやるなら伝統を生かして、その伝統を崩さない範囲で新しいことにチャレンジ、この地域そして山口県の地域おこしにつながるような仕事をしていきたいと考えています。

シェイクスピア演劇で「世界のニナガワ」と評価される蜷川幸雄監督が来萩

「^{わら}嗤う伊右衛門」^{かいまがり} 鍵曲 でロケ！

7月27日、28日に萩市堀内の鍵曲で「嗤う伊右衛門」の撮影が行われました。全国でも街中に未舗装の道路は少なく、セットでは出せない奥行きを出したいということからロケ地に萩が選ばれました。

監督 蜷川幸雄 原作 京極夏彦
出演者 唐沢寿明、小雪ほか 配給 東宝株式会社
公開予定 2004年春、全国東宝洋画系

内容 生真面目で笑うことのない浪人の伊右衛門と、凛とした性格と美しさが評判だったが病のため顔の片側が崩れてしまった岩との恋愛、二人を取り巻く人間たちの愛憎や狂気を交えて描く究極の恋愛映画。



◀ 鍵曲でのロケ風景



☒ 蜷川幸雄監督



11代三輪休雪氏の萩焼技法を収めた記録映画「萩焼 11代休雪の鬼萩」の上映会が、8月7日萩ツ

インシネマで行われました。2回の上映で、陶芸ファンら延べ350人が鑑賞しました。
文化庁が工芸技術の記録、後継者の育成を目的に企画。今年3月と5月に桜映画社の協力で萩ロケが行われました。
砂を混ぜ込んだ土で造る鬼萩の技法、「休雪白」と言われる独特の釉薬などを紹介。作陶への思いを語る場面のほか、休雪氏の日常生活の様子など、人間味あふれるシーンも盛り込まれています。

記録映画「11代休雪の鬼萩」完成

「11代休雪の鬼萩」

ビデオ発売中！

今回上映された映画がビデオ発売中です。

全編カラー、37分

企画 文化庁

制作 株式会社桜映画社

協力 萩市、下瀬信雄（写真）

ほか

価格

個人向け 1万円（税別）

団体使用権付 5万円（税別）

申し込み・問い合わせ 桜映画社（03・3478・6110）

中井川由季の茶室「真昼の月」

県立萩美術館・浦上記念館が著名な芸術家に一年を通して開放する茶室に、女性陶芸家中井川由紀さん（茨城県八郷町）の作品が来年2月29日まで展示されています。



◀ 中井川由季
▼ 茶室だけでなく中庭にも作品展示
高さ 67 cm、303 cm × 280 cm



原始土器の美展

11月1日〜平成16年2月1日

日本、中国、朝鮮の陶磁器をはじめとするさまざまな美術品、自作の陶磁器や書画、そして小山の多彩な交友関係を物語る陶芸家たちの作品を含む約100点を展示します。
入館料 一般1000円、学生800円

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

▶ オープニングセレモニー



開館時間 午前9時〜午後5時
館日 月曜日
問い合わせ 山口県立萩美術館・浦上記念館
(0838・24・2400)

情報アラカルト

関東地区

■東京指月会

東京指月会を次のとおり開催します。第43回国際放送賞の最優秀賞を受賞した写真家下瀬信雄のテレビCMが披露されます。

とき 10月18日(土) 午後2時30分
ところ 千代田区丸ノ内 日本工業倶楽部

■岡田裕八代就任記念個展

萩焼作家 岡田裕の作品が展示されます。

とき 10月1日(水)～7日(火)
ところ 東京都豊島区 池袋西武百貨店

■金子信彦個展

萩焼作家 金子信彦の作品が展示されます。

とき 10月21日(火)～27日(月)
ところ 東京都世田谷区 世田谷美術館

■「白の稜線」

萩焼作家 三輪和彦の作品が展示されます。

とき 9月23日(水)～29日(火)
ところ 東京都 日本橋三越本店
■濱中月村の陶磁器
萩焼作家 濱中月村の作品が展示されます。

示されます。

とき 9月17日(水)～22日(月)
ところ 神奈川県鎌倉市小町 鎌倉工芸
(0467・25・1766)

■姉妹都市物産展

萩市からは海産物、銘菓、地酒等を販売します。

とき 10月3日(金)・4日(土)
午前10時～午後5時(4日は午後4時まで)

ところ 鎌倉市小町 鎌倉生涯学習センター(JR鎌倉駅東口徒歩3分)

■萩・世田谷幕末維新祭り 萩観光物産展

萩焼、地酒、地ビール、蒲鉾、海産物、夏みかん菓子等の販売と、陶芸教室が開催されます。

とき 10月25日(土) 午前10時～午後7時・26日(日) 午前10時～午後6時

ところ 世田谷区松陰神社鳥居前(東急世田谷線・松陰神社前駅)

東海地区

■兼田昌尚個展

萩焼作家 兼田昌尚の作品が展示されます。

とき 9月4日(火)～16日(火)

ところ 京都市 たち吉本店

■濱中月村の陶

萩焼作家 濱中月村の作品が展示されます。

とき 10月2日(水)～8日(水)
ところ 大阪市北区梅田 阪神百貨店

■兼田昌尚作陶展

萩焼作家 兼田昌尚の作品が展示されます。

とき 9月4日(火)～16日(火)
ところ 京都市下京区四条 たち吉本店

中国地区

■広島指月会

広島指月会総会を次のとおり開催します。

とき 9月20日(土) 午後5時～

ところ 広島市南区 ホテルグランヴィア広島

■「花のたまひし」原画展

よしだみどりの墨彩画、水彩画、華道千秀曾家元の岡静風(福栄村出身)による生花とのコラボレーション。

とき 9月13日(土)～23日(火)

ところ 島根県鹿足郡津和野町 俵種苗店
(0856・72・0244)

■濱中史郎・佐竹卓也二人展 First Contact

写真と陶芸の可能性

12代休雪襲名披露展

●●●「シルクロード盤」●●●

今年4月萩焼の12代三輪休雪を襲名した三輪龍作氏(萩陶芸家協会会長)の襲名披露展が開催される。出品作品は奈良、正倉院収蔵のガラス碗「白瑠璃碗」をヒントに、自らの精神や美意識を注入して全面金彩に仕上げた作品40点。

- ◆9月24日(水)～30日(火)
大阪市中央区 大阪高島屋
- ◆10月29日(水)～11月2日(火)
京都市下京区 京都高島屋
- ◆11月26日(水)～12月2日(火)
東京都中央区 日本橋高島屋



▶全面金彩に仕上げた出品作品

萩焼作家 濱中史郎と佐竹卓也の作品が展示されます。

とき 10月5日(日)～26日(日)
ところ 島根県津和野町本町 古橋酒造内蔵
(0856・72・3355)

山口県関係

■山口指月会

山口指月会を次のとおり開催します。

とき 10月18日(土) 午後6時～
ところ 山口市 翠山荘

萩市関係

■たちばな会本部総会

たちばな会本部総会を次のとお

り開催します。

とき 10月18日(土) 午後6時30分

ところ 萩商業高校体育館

■彩陶庵の企画展

●素子に捧げるレクイエム

坂高麗左衛門個展

萩焼作家 坂高麗左衛門の作品が展示されます。

とき 9月26日(金)～10月2日(木)

●野坂康起個展

萩焼作家 野坂康起の作品が展示されます。

とき 11月7日(金)～13日(木)
ところ 萩市呉服町 ぎやうい彩陶庵

萩・文学散歩

高樹のぶ子「罪花」

萩の町には灰色の凛々しさがある。

高樹のぶ子さんは昭和21年山口県防府市生まれ。東京女子大学短期大学部卒業。昭和58年「光抱く友よ」が第90回芥川賞受賞。福岡在住。

今年6月出版された「罪花」は、罪悪感の奥にひそむ官能を描いた短編集。どこにでもいそうなヒロインが事件にまきこまれていく。「萩の町には灰色の凛々しさがある。(略)雨の日には町から観光客たちの姿も消える。夏みかんと



出版 文芸春秋
定価 1429円(税別)

高樹さん記念講演で来萩

「罪花」の著者高樹のぶ子さんが、萩おもてなし大賞表彰式の記念講演会の演壇に立ちます。

とき 10月3日(金) 午後7時

ところ

萩市民館大ホール

演題 「やまぐちの心」

主催 萩ケーブルネットワーク(株)

吉田初三郎に感じるめまい 荒俣宏の不思議歩記

萩市民大学教養講座で演題に立った作家・翻訳家の荒俣宏さんが、毎日新聞の夕刊連載「荒俣宏の不思議歩記」(8月2日)で、吉田初三郎の鳥瞰図について次のように感想を寄せました。

日本一の鳥瞰図絵師と謳われた

吉田初三郎の肉筆屏風絵を見に山口県萩市へ出向いた。(略)

70年前、鉄道が敷設され観光名所として起つ準備を整えた萩町が、宣伝の切り札として吉田初三

郎に萩の鳥瞰図を描いてほしいと申し入れたのだとか。(略)

萩市で見学した屏風絵も、まさに初三郎の独壇場、(略)両翼は魚眼レンズか強度の近視メガネで見たように円形に歪めてある。なんと、萩から富士山も東京も見え、四国、九州、果ては北海道の陸地までが描いてある！そう、見ていて「めまい」がおこるスペクタクルなのだ。(略)

初三郎は萩の名産夏ミカンを完全に無視し、そばの海水浴場の方を大きく描いた。実に大胆な省略だ。観光の目で日本を描き直す、その神髄を見る思いがした。



萩市街鳥瞰図屏風(萩市郷土博物館蔵)

■ギャラリー草葬の企画展

●大谷桂子作品展

動物をモチーフとした陶器作品と版画、小絵画を組み合わせて展示されます。萩市在住。

とき 9月12日(金)～15日(月)

出版情報

■週刊やきものを楽しむ10 萩焼

「歩いて探す萩焼」のコーナーでは、萩市内の販売店で扱っている作品をカラーで作者、価格とともに紹介。「工房を訪ねて」では作家兼田昌尚、野坂和左の作品、作法を紹介。表紙は兼田昌尚の作品。35ページ。

定価 560円(税込)

出版 小学館



■魏志倭人伝三国志CG絵巻(影井由宇CG制作)

「魏志倭人伝」に登場する倭国や邪馬台国の人々の生活を萩市出身の影井さんがCG技術を用いて復元した歴史絵巻。

定価 1800円(税別)

出版 G・B

■長州の科学技術

近代化への軌跡／創刊号



■今、ビリオン神父を追う 幕末から昭和まで ホセ・パシオスカトリックの布教に活躍したパリ・外国宣教会宣教師ビリオン神父。52歳で萩教会に赴任した神父の人生の苦楽を、萩の洗礼台帳を資料に描き出す。107ページ。

定価 952円(税別)

出版 アガリ総合研究所

(0838・26・5902)



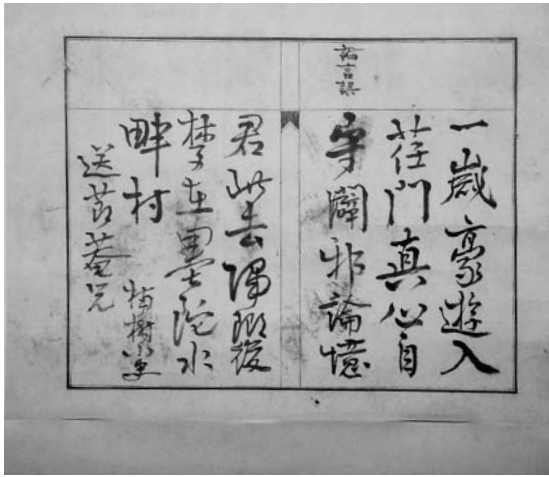
一昨年に結成された幕末長州科学技術史研究会の初めての研究報告書。郡司鑄造所跡の発掘調査、萩反射炉の謎など、これまで発表されたことのない画期的でセンセーショナルな内容。A4版 50ページ。定価 1000円(消費税、送料込) 申し込み 幕末長州科学技術史研究会事務局 (0838・25・4122) 森田

それぞれの幕末維新(6)

―晋作・玄瑞の盟友、榎崎弥八郎―

榎崎弥八郎は、天保8年(1837)7月12日、萩藩土
 榎崎源次郎の3男として萩城下土原に生まれました。高杉
 晋作が天保10年生まれ、久坂玄瑞が天保11年生まれです
 から、3人ともほぼ同世代ということになります。嘉永6年
 (1853)9月藩校明倫館に入学し、安政6年(1859)
 9月明倫館居寮生(寄宿生)の舎長となりました。晋作
 も、明倫館で同じような経歴をたどり、万延元年(1860)
 3月には江戸へ行った弥八郎のあとを受けて、明倫館の舎長
 に命ぜられています。

さて、万延元年3月江戸へ旅立った弥八郎は、尊王論を説
 く大橋訥庵の塾などに学び、文久元年(1861)1月
 は、江戸桜田の萩藩邸内にあった文武講習所有備館に入りま
 した。萩藩の改革派官僚として将来を嘱望されていましたが、
 元治元年(1864)7月に勃発した禁門の変の責任をとら
 され、同年12月19日、萩の野山獄で刑死しました。28才でした。
 玄瑞の日記には、弥八郎の名が頻繁に見られ、互いに行



▲弥八郎に贈った高杉晋作の漢詩(萩市郷土博物館蔵)

き来し、行動を共にしています。万延元年8月28日には、
 晋作が剣術修業などのために江戸から北関東や信州・北
 陸に旅立つにあたり、玄瑞・弥八郎・桂小五郎(後の木
 戸孝允)らは、晋作を見送りに江戸小塚原の吉田松陰の
 墓に詣でたあと、千住で別れています。

また、弥八郎が文久元年8月25日、大橋訥庵の塾を萩
 藩の保守派の命令によって退塾させられ、江戸から萩へ
 帰るにあたり、晋作は次のような漢詩を弥八郎に贈って
 います。(写真上)「一歳豪遊して 莊門に入る 真心自
 ら守る 關邪の言 憶ふ君此を去りて 郷に帰る後 夢は在
 らん 墨陀水畔の村」。「莊門」とは、江戸のことです。「關
 邪の言」は、訥庵の著作のことで、幕末の志士たちの愛
 読書でした。「郷」は萩、「墨陀水畔の村」は隅田川のほ
 とりの村のことで、訥庵の塾のあったところでした。志
 半ばで江戸を去る、弥八郎の心情を思いやった内容の詩
 です。なお、訥庵は文久2年1月幕府によって捕らえられ、
 同年7月病死しました。

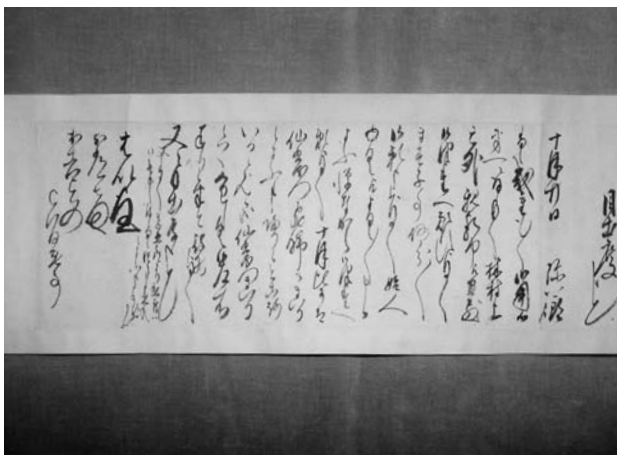
元治元年の禁門の変ののち、萩藩の政権を保守派が握
 ると、晋作は谷梅之助と変名し九州へ亡命します。この時、
 晋作は弥八郎を説得して一緒に脱藩を企てようとしたま
 したが、弥八郎は心ぜず、結局は捕らえられ、「今更に何を
 かいはん 朝な夕な 心の中を語りつくせば」という和歌
 をのこし、無念の最期を遂げました。

萩市郷土博物館は、弥八郎の手紙を数通所蔵していま
 す。その中の一つ、弥八郎が初めて江戸へ行ったその年
 の万延元年10月20日に、母はい・妹つね・妻きちに宛て
 てしたためられた手紙を紹介します。(写真下)弥八郎24
 歳の時のものです。母へは、来年の榎崎家の法事や秋の
 天神祭りなど萩の様子を伺い、また自分の病気の症状(胸
 の病)を細かに書き記しています。そのほか、大橋訥庵
 の塾に入った様子も伝えています。正規の塾生は14人ほ
 どで、弥八郎は寄宿もしていたようです。訥庵の講義は
 月に6日あてで、その時には外部から聴講に来る者も含
 め50人余りにもなったといひます。

成人(15歳)を迎える妹へは、裁縫や手習いなどの嫁

入り修業に精を出しなさいと指示し、「遊び候事は無用
 にて候」と厳しく戒めています。

19歳の妻へは、初めての子で1歳8か月になる長女ま
 すの養育に關していろいろ注文しています。まず素直に
 育ててくれといい、特に冬にこたつの中へ落ちないよう
 に、気を付けてほしいと心配しています。この当時、子
 供がこたつの中に落ちてやけどを負うことがよく起こつ
 たようで、この事は「御大事々々々々」と「御大事」
 を3度も繰り返しています。最後にますが言葉をしやべ
 り出したら、丁寧に教えてやれと助言しています。そして、
 その時の様子をのちの手紙に詳しく書いてよこしてくれ
 と頼んでいます。また、櫛や 弁くらは買って送るから、
 欲しい時には言ってくれと妻に対して思っています。
 いずれにしても、弥八郎の子として、あるいは兄として、
 父として、夫としてのそれぞれの気持ちがよく表れた手
 紙です。



▲母・妹・妻に宛てた弥八郎の手紙(萩市郷土博物館蔵)